

文化・芸術

「scape—ocean」

2022年、岩絵の具、アートグルー
アルミ板110・0^{cm}×75・0^{cm}×1・6^{cm}
(作家蔵)

小野友三 (1964年)

小野友三さんは、桐生市に生まれ、東京芸術大学日本画専攻を経て1989年に同大学院美術研究科を修了。近年はアルミ板の上に岩絵の具を塗り乾かし、水とほけて流しとる制作を続けられています。

銀色の画面は鏡のようですが、像を映すこととはなく、岩絵の具の痕跡が広がっています。洗い流すという行為は、ある意味、絵の具を塗る前へさかのぼる行為ともいえるかもしれません。砂浜に打ち寄せた波が引いた後のように、画面には岩を砕いて作られた微細な粒子が一樣に残ってキラキラと光ります。その中に岩絵の具の痕跡が淡く残り、イメージを求めて不鮮明なそのかたちを追うと、かなたの記憶の世界をのぞくようです。

風景を意味する「scape」と題されたこの繊細な画面は、写真には拒絶するかのように映らず、作品の前に実際に立つことでしか経験できない景色です。

※小野友三さんのアーティストトークは6月1日午後2時から展示室で開催します。(大谷)

企画展「The日本・画—大川美術館のコレクションを中心に」から

《名画の扉》

